



七カ国から60名が参加

GC国際ワークショップに クリーンコンボジット

日本材料学会複合材料部／技術振興財團の後援なつひ／函館会、日本高分子学会等
門委員会が、神戸電力基礎技術研究所とスガツエサリン／材料学会、㈳塑化プラスチック
日本大学工学部教授

が実行委員長を務める「第4回クリーンコンポジット国際ワークショップ／IWGC-4」は、去る九月十四日㈭十五日㈮の両日、JR御茶の水駅聖橋口近くの日本大学理工学部駿河台校舎1号館で開催された。

韓国、インド、ベトナム、バングラデッシュの七カ国から約六〇名が参加した同ワークショップでは、竹・マニラアッサ・砂糖キビ・トウモロコシ

・カムシ等の天然樹脂や
般、リクニン粉末、木粉等を
利用した、クリーンコンボジ
クトの研究に関する二七件の
発表と二〇件のポスターセッ
ト小林直矢氏

ションの発表が行なわれた。
このつら、新進研究者を対象とするベストペーパー賞には(1)李貴煥氏(韓国国立KU MOU技術大学)の「天然繊維複合材の水処理による特性改善」・(2)小林直矢氏(首都大学東京)の「竹繊維複合材の成形と引張り応力変形挙動の研究」の二件が選ばれ、十五日の発表後に行なわれた授賞式において(3)運営実行委員長から西尾氏に対して賞状と副賞賞金が贈られた。

最後に運営実行委員長が、二日間に及ぶ発表と討論が「参加者の協力によって実のあるものとなり今後のクリーンコンボンファートの研究発展に寄与することを期待する。二年後の二〇〇八年に福島で開催される『IWGC-5』で再会しよう」という趣旨の閉会挨拶を行なって散会した。

が実行委員長を務める「第4回クリーンコンボジット国際ワークシヨップ」(IWGC)は、去る九月十四日㈭と十五日㈮の両日、JR御茶の水駅聖橋口近くの日本大学理工学部駿河台校舎1号館を開催された。

日本を初め米国、ドイツ、韓国、インド、ベトナム、バンクライ・シユの七カ国から約六〇名が参加した同ワークショップでは、竹・マニラアシ・砂糖キビ・トウモロコシ・カラムン等の天然繊維や木粉、リケニン粉末、木粉等を利用した、クリーンコンボジットの研究に関する二七件の発表と二〇件のポスターセッションは、運営委員長からベストペーパー賞の賞状を贈られる李貴研氏（上）と小林直矢氏

このうち、新進研究者を対象とするベストペーパー賞には①李貴研氏（韓国国立KU MO暨技術大学）の「天然繊維複合材の水処理による特性改善」、②小林直矢氏（首都大学東京）の「竹繊維複合材の成形と引張り応力変形挙動の研究」の二件が選ばれ、十五日の発表後に行なわれた授賞式において運営委員長から西田氏に対して賞状と頒賞金が贈られた。

最後に運営委員長が、二日間に及ぶ発表と討論が「参加者の協力によって実のあるものとなり今後のクリーンコンボジットの研究発展に寄与することを期待する。二年後の一〇〇八年に福島で開催される「IWGC-2」で再会しよう」という趣旨の閉会あいさつを行なって散会した。